

# 新宿 ビズタウン ニュース

Shinjuku BizTown News

No. 37  
平成29年6月30日号

目次	新宿でつなぐ“のれん”……………1-5
	インフォメーション……………6-8

## 新宿の老舗企業訪問

# 新宿でつなぐ “のれん”

本年平成29年に創業100年以上となる企業は全国に3万3,069社あります。これを都道府県別にみると東京都が最多で全体の11.5%にあたる3,811社があり、そのうち新宿区には166社があります。また、都内の3,811社を100年単位の業歴内訳でみた場合93.7%の3,573社が「創業100年以上200年未満」であることもわかりました。(株東京商工リサーチ「平成28年12月 全国『老舗企業』調査」より)

業歴の長い企業には時代や市場変化への対応力や、事業継承への努力があるはずでず。

新宿区では平成28年に「新宿100年企業への道～企業の持続的発展を考える」をテーマに「産業振興フォーラム」を開催しました。今回は東京商工会議所新宿支部の協力を得て、創業100年以上の歴史を重ねている区内企業・商店に経営のヒントを伺ってきました。



都電新宿駅前／昭和30年代(新宿歴史博物館所蔵)



# 時代に即応する柔軟性でUDの普及に挑む

ユニバーサルデザイン

**創業127年、新宿で56年**

株式会社マクビーカタガイの原点は明治23（1890）年、東京市日本橋区呉服町10番地に初代・片貝龜太郎が創業した集文社印刷所。東京府下に15区から成る東京市が誕生した翌年のことです。

大正11（1922）年に京橋区和泉町（現中央区京橋一丁目）に移った2代目の片貝嘉雄は社名を三香堂片貝印刷所と改めました。関東大震災、東京大空襲による焼失を乗り越えて昭和20（1945）年、片貝商会印刷所として営業を再開、昭和29（1954）年、片貝印刷興業株式会社として設立登記し、昭和36（1961）年、新宿区新小川町に移転しました。創業127年、新宿区で56年の歴史を重ねる同社を率いるのは7代目の清水正雄代表取締役です。

「平成4（1992）年、現社屋への建替えに伴って社名やロゴマークを一新しました。『MACBY』は印刷の4原色であるマゼンダ（Ma）、シアン（C）、ブラック（B）、イエロー（Y）を組み合わせた社員発案の造語。意味を説明すると印象に残るらしく、この社名にして良かったと思っています」



代表取締役の清水 正雄さん



新小川町新社屋（現在地）屋上での納涼会（昭和36年頃）



品質には自信。刷り上がりを丁寧にチェック

## 創業127年 明治23年(1890年)～ (株)マクビーカタガイ (印刷業)

所在地●新小川町5-3

電話●03(3260)9100

代表取締役●清水 正雄

### 祖業の印刷業でUDを追求

マクビーカタガイは生命保険会社、損害保険会社、信販会社などの金融機関の帳票類やマニュアル、約款などの印刷業務に軸足を置いています。日本の印刷業界は平成3（1991）年をピークとして縮小に転じました。

「ガソリンスタンド経営など事業を多

角化した時期もありましたが、片貝英重（現最高顧問）の決断で印刷事業に注力し、印刷関連物流のネット管理システムや約款作成システムを開発しました。現在は新旧対照表を簡単に作成できる文書管理システム Smart DOCUMENT が好評です」

ユーザー目線によるユニバーサルデザイン（UD）導入支援サービスも、多くの金融機関の注目的。マクビーカタガイでは実際の帳票記入行動に基づいて顧客利便性の高い印刷デザインを提案する「記入帳票ユーザーテスト」と、UDデザイン有資格者が印刷物をチェックして改善例を提案する「ユニバーサルデザイン紙面調査」という2つのサービスを提供し、納期が短く価格も低めなことに高評価を得ています。

### 身の丈に合った経営とチャレンジ精神

平成25・26年度の2度、新宿区立淀橋第四小学校（新宿区北新宿）3年生の「新宿区産業めぐり」の見学を受け入



刷り上がった帳票を断裁機に



見学に訪れた子供たちからお礼として届いた寄せ書き

「床に立入禁止の黄色いテープを貼るなど、安全に配慮して受け入れ準備をしました。後日届いたお礼の作文を食堂に張り出したら、社員も大喜び。満足から感動へ」という当社の経営理念に合致する地域貢献を今後も続けていくつもりです」

インターネットの普及や若者の活字離れを背景に、多くの印刷業者が姿を消していくなかで歴史を刻み続けるマクビーカタガイ。その秘訣は「身の丈に合った経営」と新しいことに積極的に取り組み柔軟な姿勢にあるようです。

「規模に合った技術を追求するために社員の資格取得を支援し、新しいアイデアを形にするチャレンジ精神への投資は惜しまない。やる気のある人間を会社として援助する会社のDNAを活かし、印刷物におけるUDを通じて高齢者や障がい者の社会参加に貢献していきたいと思います」

新宿でつなぐ  
「のれん」

# 真心と適正価格に徹する街の魚屋さん



右が3代目の駒井 米蔵さん。弟さん(左)とともに4代目(中央)を支える



新宿通りに面したお店

昭和30年代後半、スーパーマーケットの進出で小売店が危機感を強めるなか、米蔵さんは青色申告制度の生みの親とされる経営コンサルタント・喜多村実氏のゼミナールに参加し「感謝の気持ちで接客する」「適正価格と真心を提供する」「笑

「たまたま来店した給食調理員が当店の気に入ってくれたことで、給食関係者の間に当店の信用が広まったようです。将来ある子どもたちの食を通じて地域に貢献できることは、長年、新宿で商売をしてきた私たちにとって、この上ない大きな喜びです」

昭和53(1978)年、新宿通りの拡張工事に先がけ、近隣3軒で共同ビルを建てる際に同名の業者の存在を知り、

2代目を継いだ長男・太助が子供に恵まれなかったため、長女夫婦の二男を養子に迎えることにして、米造の一字を変えて米蔵と名付けました。それが「私は生まれながらに魚屋になるよう、決められてしまったんだよ」と語る3代目の駒井米蔵さん。しかも昭和26(1951)年、太助が49歳の若さで亡くなったため、わずか20歳で家業を継ぐことになりました。

天秤売りから一軒店へ  
新宿通りに面して「魚のかねこま」の看板を掲げる「魚の金駒」の創業者は、埼玉県入間郡出身で小石川の魚屋・金田屋に奉公した駒井米造。天秤棒を担いで四谷界隈を売り歩いて商売を学び、明治30(1897)年、屋号を受け継いで「金田屋」を開業しました。明治末、大正初期の四谷地区には、十数軒の鮮魚小売商があったそうです。

創業120年

明治30年(1897年)～

魚の金駒

(鮮魚)

所在地●四谷2-8  
電話●03(3351)4306  
代表取締役●駒井 米蔵



「金田屋」から「金駒」に改めました。その後、米蔵さんの長男が4代目を継ぎ、その長男も5代目を継ぐべく調理師学校に通っています。

**小売業受難時代を生き抜く四訓**  
初代の米造は商売上手で店は大いに繁盛し、若い衆が十人以上も働いていた時期もありましたが、戦時中の小売店は隣組単位の登録制。戦後の品不足や

「魚屋は使ったお金が経費で残ったお金が利益というザル勘定。それを売掛金は売上げだとか、自家消費分も計上しろとか細かく指導され、手帳に書き込む符丁を覚えてくれという税務署員もいました。明治生まれの店主が多い時代、若くて仕訳帳をつける知識があった私が頼られたのかもしれません」



戦後すぐ20歳で3代目を継いだ米蔵さんの若かりし頃



← 昔の魚屋は天秤棒を担ぐ棒手振(ぼてふり)が主流だった(大正8年)

→ 2代目の太助さん、20歳の頃

顔とチームワークを大切にする「やる気と衛生に注意する」という内容の「金田屋四訓」を作成し、小売店としての生き残りを図りました。

**未来ある子どもの食に鮮魚で貢献**  
金駒は住民が激減して小売店が次々と閉店する悪循環に陥ったバブル期を、四ツ谷駅北側の小売市場「四谷グリーンマート」(平成20年閉鎖)への出店、店舗2階での飲食店経営、近隣飲食店での顧客獲得などで乗り切りました。さらに区内の学校給食への鮮魚納入をきっかけに、子ども園や保育園へも鮮魚提供を行っています。

# 施主や設計者の意を具現化する匠技

西五軒町で114年

木本幸雄代表取締役の祖父・木本小文治は明治36（1903）年、牛込区牛込西五軒町39で木本板金加工所を設立しました。かつて鍛冶屋や鋳物屋が集まっていた名残なのか、毎年ふいご祭りが催され、板金屋根の需要が高まった関東大震災後は、牛込地区だけで40軒くらいの板金業者がいたようです。

小文治は親方として多くの弟子を育て、山の手板金組合の組合長を務めました。終戦間もない昭和21（1946）年、戦地から戻った義正が2代目を受け継いで事業を再開した頃、3代目の幸雄さんが誕生。

昭和40（1965）年に入社した幸雄さんは昭和50（1975）年から代表を務め、平成3（1991）年、有限会社木本板金工業の設立に伴って代表取締役役に就任。そして平成15（2003）年、西五軒町地区の再開発に伴って現在地に移転しました。



2代目の義正さん(右)と3代目の幸雄さん(昭和32年頃)



3代目の木本 幸雄さん

**創業114年**  
明治36年(1903年)～  
**(有)木本板金工業**  
(板金工事)  
所在地●西五軒町12-1-B101  
電話●03(5261)8586  
代表取締役●木本 幸雄



西五軒町39にあった木本板金加工所

## 後継者不足で業界は縮小

空襲で焼け野原になった東京は住宅需要が高く、屋根や外壁などを施工する建築板金業界は勢いがありました。昭和40年頃を境に瓦屋根の人氣が高まったものの、防食性の高いガリバリウム鋼板（アルミニウム・亜鉛合金めっき鋼板）が普及すると、再び業績は上向きしました。

「バブル崩壊から5年遅れて不景気に

なり、ガリバリウム鋼板の需要が伸びたと思ったらリーマンショック。今後はオリンピック関連工事で景気が上向き、個人住宅需要に波及することに期待しています」

一人親方や家内工業が多い板金業界では、後継者の確保と技術の継承が大きな課題。幸雄さんは小学生時代から家業を見覚え、現場を手伝いながら技術を身につけましたが、近年は東京都板金工業組合が運営する職業訓練校（板橋区小豆沢）で2年間学び、国家技能検定（2級技能士）の受検資格を得るのが一般的です。

「都内の建築板金工業は400弱で、牛込地区は実質5軒。後継者不足は深刻ですが、当社は私の次男が4代目を継ぐことになりました。縮小してもなくなることはない専門業として、若い人が入社しやすいような会社組織に変えていくつもりです」



次代を担う幸雄さんの息子さんたち



平成15年に現事務所に移転

## 顧客の要望に誠実に応える

木本板金工業が大切にしてきたのは、顧客の要望に誠実に応えること。

「イメージやデザイン優先の設計が増えるなかで、無理だと言ってしまうばそれでおしまい。早い段階で問題点を伝えて話し合い、施主やデザイナーの意に即した建築物に仕上がるよう、職人に任せる前に適切なコミュニケーションを取るようにしています」

初代の小文治は関東大震災のとき、パンを買い集めて避難者に配ったという逸話の持ち主。PTA会長や町内会長等を歴任した2代目の義正は周囲に請われ、60歳を機に家業を離れて新宿区議会議員を20年務めました。

「私はといえば家業以外で父を継げたのは18歳で入った消防団だけ。定年まで続けます、と言ってももうすぐですが（笑）。地域に貢献したいという気持ちはずっと持ち続けています」

# 門外漢だからできた伝統製法のアレンジ

## 甘味材料に特化して高評価

寒天にこだわった讃岐屋は大正3（1914）年、香川県出身の和菓子職人・岡照一が現在の新宿区高田馬場で創業しました。その後、2代目の一夫が洋菓子の職人になったため、十数人の職人を雇い、和菓子、洋菓子、軽食、喫茶を提供する店舗を営んでいた時期もあったそうです。



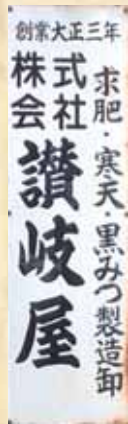
店舗の隣が工場。寒天のほか、求肥も製造



3代目の福原 豪さん

昭和59（1984）年、照一が亡くなったのを機に神田川沿いの現在地に移り、甘味材料の製造業務に絞り込みました。なかでも伊豆産の上質な天草を乾燥させた一番天草だけを使って作る寒天は、天草を加工した後の棒寒天や粉寒天で作るものとはまったくの別物。独特の舌触りと海草の風味で評判になり、近隣の甘味喫茶だけでなく、銀座や新宿の老舗や有名店にも豆腐のように1丁単位で配達するようになりました。

その後、神田上水公園の桜並木が育ち、遊歩道が整備されたのに合わせて工場の一部を改装し、絶妙な食感のあんみつやとろてんを味わえる喫茶席を設けました。今では知る人ぞ知る、人気店となっています。



## 創業103年 大正3年(1914年)～ (株)讃岐屋 (和菓子)

所在地 ● 高田馬場3-46-11

電話 ● 03(5489)5489

代表取締役 ● 福原 豪

## 伝統製法を現代的にアレンジ

2代目の娘さんと結婚して3代目を継いだ福原豪さんは、「自己主張しない寒天はシンプルだけど難しい食材」と語ります。



神田川に面した店舗

「甘味にも和菓子にも縁がなかっただけに、天草を鍋で煮溶かす従来の直火製法が、職人の腕に左右されることに不安を覚えました。寒天ブームで販路が広がるにつれ、均質で優れた商品を安定的に提供する必要性も強く感じました」

建築業界で働いていた福原さんは機械メーカーに相談し、群馬県のこんにやく工場を訪ねて製造工程や機械について徹底的に研究を重ね、自ら製造ラインを設計し、安定した品質の寒天を短時間で製造することに成功しました。今では毎日の寒天づくりが楽しくて仕方がないそうです。

その一方、華やかで見栄えがする商品が生まれ、販売員の派遣や育成負担が大きいパートでの販売からは撤退し、催事での

買い取りや付加価値をアピールしやすい高級スニア等に出荷を限定するなど、販路を見直しました。



あんみつは人気の定番商品

「たとえば店のあんみつは、寒天、赤エンドウ、あん、求肥だけ。彩りのよいフルーツは使わないので地味だと言われますが、褒め言葉だと受け止めています。ただし、寒天は日本一大きいと思いますよ（笑）」

## 職人技を安定的に未来に残す

創業から103年、紆余曲折を乗り越えて讃岐屋ののれんを守って来られたのは甘味材料に特化し、寒天、黒みつ、求肥餅、赤エンドウの4つへのこだわりを前面に打ち出し、伝統を残す方法を考え抜いた努力にありそうです。工夫好きで福原さんは一時期、寒天を凝固剤と考え、寒天を素材にした商品をいくつか考案しましたが、「寒天はいじらずそのまま食べる方がよい」とことを痛感したとか。

「職人技が絶えても、職人がいなくなっても、従来品以上の食感や風味に優れた寒天を製造し、しかも新宿区で作られているという価値を付加する方法は確立できました。これを未来にどう伝えるか、当社のみでできることは限られるので、共感できる業者との提携を模索していきたいと思っています」



新宿区内の中小企業・商店の福利厚生は「はる新宿」におまかせください

## はる新宿 会員募集中!



### 【はる新宿とは】

「(公財) 新宿区勤労者・仕事支援センター 勤労者サービス課」の愛称です。100%新宿区出資の公益財団法人で新宿区内にある中小企業・商店等にお勤めの勤労者および事業主の方々の福利厚生をお手伝いしています。

### 【入会できる方】

- ①新宿区内にある従業員300人以下の中小企業(会社・工場・商店(個人商店を含む)等)で働く従業員および事業主の方  
\*全従業員でのご入会とさせていただきます。
- ②新宿区内に居住し区外の中小企業で働く方で、勤務先の区または地域に同様の共済会・サービスセンターがない方

### 【会費】

- 入会金=200円(入会時/1人)
- 月会費=500円(月額/1人)  
事業主の負担した入会金・会費は税法上、損金または必要経費として処理できます。

### 【主な事業内容】

下記は、ご利用いただけるメニューのごく一部です。  
ガイドブックと年10回の会報誌でお得な情報をお届けします。

- 指定(協定)宿泊施設を会員価格にて利用可  
指定旅行会社(支店限定)の企画するツアーを割引価格にて利用可  
さらに宿泊費の補助が1泊2,000円(家族は1,000円)(年間4泊分)  
期間限定ツアー補助もあり(会員4,000円、家族は2,000円)(年間1回)
- ティップネス、オアシス、BIGBOXなどのフィットネスクラブを会員価格で利用可
- 大江戸温泉物語、浅草ROXまつり湯などの入浴施設の補助券(割引券)を配布(1枚500円分・年間8枚)
- 東京ドームシティ、サンシャインシティや近郊の遊園地などの割引
- コンサート、演劇、美術展などの鑑賞券が3~2割引
- プロ野球、サッカー、大相撲等の観戦券が3~2割引
- 京王プラザ、ハイアットリージェンシー他有名ホテルなどの食事券が3~2割引(期間限定)
- 健康診断(2,000円)・人間ドック(5,000円・40歳以上のみ)の利用補助(年1回)
- 結婚・出産・入学等の祝金、入院等の見舞金、本人・ご家族の弔慰金の給付(5,000円~100,000円)

【問合せ先】はる新宿(公益財団法人 新宿区勤労者・仕事支援センター 勤労者サービス課) 電話03(3208)2311

## 区内中小事業者の省エネを支援します

区では地球環境への負荷の低減や、地域の環境保全などに積極的に取り組む企業や団体を支援しています。

### ①中小事業者省エネルギー対策支援

省エネ診断の専門家が訪問し、設備の効率化の提案や、省エネアドバイスを無料で行います。

【対象】区内の中小規模の事務所、工場、店舗、テナントビルなど(先着順。予定数10件)

【受付期間】平成30年1月15日(月)まで

【ホームページ】[http://www.city.shinjuku.lg.jp/jigyo/kankyo01\\_000004.html](http://www.city.shinjuku.lg.jp/jigyo/kankyo01_000004.html)

### ②LED照明設置費用の助成

【対象】中小事業者省エネルギー対策支援(上記①)又は過去に区が実施した省エネルギー診断で、LED照明導入の提案を受けた中小事業者(個人事業者を含む)等

【補助金額】施工経費の50%(上限40万円)(先着順。助成総額200万円)

【受付期間】平成30年2月28日(水)まで(設置・施工前に申請が必要です)

【ホームページ】<http://www.city.shinjuku.lg.jp/jigyo/shoenergyled.html>

### ③環境マネジメント規格の認証取得の審査・登録費用の助成

【対象】法人格を有する団体で、平成30年3月30日までに区内の事業所を適用範囲として環境マネジメントシステム規格(ISO14001、エコアクション21など)の認証を取得する団体

【補助対象経費】環境マネジメントシステム規格の認証を新たに取得する場合、又は適用範囲を拡大する場合の審査・登録費用(大規模事業所は対象とならない場合があります。詳しくはお問い合わせください。)

【補助金額】補助対象経費の2分の1以内(上限10万円)(先着順。助成総額50万円)

【受付期間】平成30年3月30日(金)まで

【ホームページ】[http://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file10\\_01\\_00004.html](http://www.city.shinjuku.lg.jp/seikatsu/file10_01_00004.html)

詳しくは環境対策課で配布するパンフレット、区のホームページでご案内しています。

【問合せ・申込先】環境清掃部 環境対策課 電話03(5273)3763

## 商店街空き店舗活用支援資金のご案内

利子と信用保証料は  
区が全額補助します！

区内の商店街にある空き店舗を借りて創業する方や、区内の商店街に所有している空き店舗を貸したいオーナーのための融資制度です。

### 【対象・条件】

#### ●空き店舗を借りたい方●

- ①現在事業主ではなく、これから創業する方
- ②個人または法人で創業して5年未満で、新たに店舗の出店や事務所の開設を行う中小企業者

いずれも区長が認める区内商店会もしくは商店街振興組合に加入または加入の申込みをしていることが条件です。他に区の定める要件を満たしていることも必要です。

#### ●空き店舗を貸したい方●

区内の商店街で不動産賃貸業を1年以上営業しており、区内商店街に空き店舗を所有している中小企業者。区長が認める区内商店会もしくは商店街振興組合に加入または加入の申込みをしていることが条件です。他に区の定める「中小企業向け制度融資」の基本要件を満たしていることも必要です。

### 【内 容】

貸付限度額	2,000万円
貸付期間	8年以内(うち据置期間12か月以内)
金利	2.1%以下(全額利子の補助をします。)
信用保証料	全額補助

※「空き店舗」とは区内の商店街にある1か月以上商業活動を行っていない店舗・事務所(倉庫等は不可)のことをいいます。

※区の定める「中小企業向け制度融資」の基本要件や詳細についてはお問い合わせください。



【問合せ先】文化観光産業部 産業振興課 電話03(3344)0702

## ビジネスアシスト新宿

あなたの事業所に中小企業診断士を派遣します

経営に関するお悩みをお持ちの事業所や商店等へ、中小企業診断士を無料で派遣します。専門家からのアドバイスがほしい方はぜひご利用ください。

### 【対象者】

区内中小企業者、個人事業主、商店等

### 【相談事例】

- 売上を伸ばすために効果的な商品レイアウト方法をアドバイスしてほしい
- 事業計画の立て方についてアドバイスしてほしい
- 海外展開や販路拡大についてアドバイスしてほしい
- 新規顧客を増やすため、直接店舗をみてもらいながらアドバイスしてほしい
- 国などの各種補助金・助成金の情報を教えてほしい

### 【申込み方法】

所定の利用申請書に必要事項を記入のうえ、文化観光産業部産業振興課(西新宿6-8-2 BIZ新宿4階)までお持ちください。

※利用申請書は産業振興課の窓口または新宿区のホームページから入手できます。

※中小企業診断士の情報は新宿区ホームページにて確認できます。



【問合せ先】文化観光産業部 産業振興課 電話03(3344)0701

利用者募集中

新宿で、立ちあがる、走りだす、はばたく。

法人登記可能

高田馬場駅徒歩2分

高田馬場創業支援センター

月額使用料1万円

高田馬場創業支援センターは、新宿区内での創業もしくは創業後間もない方、又は経営改革を目指す方を支援する施設です。事業の拠点となるオフィススペースを提供し、施設利用者に対して創業支援の専門家が必要な情報の提供や経営相談を行いながら、創業の準備段階から経営改革まで必要なノウハウの取得を支援します。是非ご活用ください。

#### 【新宿区高田馬場で事業が加速する12のポイント】

- 高田馬場駅徒歩2分、駅近の立地で都心エリアへのアクセス良好
- 利用期間中は登記住所として「新宿区」の住所が利用可能
- 税務・労務・法務など各種専門家によるアドバイス
- 常駐スタッフによる融資や補助金の申請サポートが充実
- セミナーで新しい知見を獲得
- 経験や体験、情報をシェアするための交流会を毎月開催
- 打合せスペースやセミナースペース完備
- 広いデスク、良質チェア、法人用ネット回線で快適な作業空間を提供
- 個室ロッカーを提供、郵便物などの受取代行
- 共用文具や雑誌、新聞などのアメニティが充実
- 複合機、モニター、冷蔵庫、給茶機などの設備も充実
- チームでの利用も可能(1社複数人での利用、法人役員に限る)



【利用料金】シェアオフィス 月額10,000円(個室オフィスは月額20,000円を加算)

【利用定員】32名(うち2名は個室オフィス利用者)

【利用期間】6か月間。所定の手続きを経て延長可、最長2年間

【募集】● 利用者の募集は随時行っています。

- 利用に当たっては、書類及び面接で事業計画の具体性、実現の可能性等を審査します。
- 応募前に、必ず高田馬場創業支援センターを見学し、利用方法等の説明を受けてください。

#### 【見学・利用相談申込み・問合せ先】 新宿区立高田馬場創業支援センター

所在地: 新宿区高田馬場1-32-10 (JR高田馬場駅 戸山口より徒歩2分)

電話: 03(3205)3031 FAX: 03(3205)1007

利用時間: 8時30分～24時(年末年始は休館)

高田馬場創業支援センター

Q 検索

## 「平成28年度新宿区産業と企業等の事業活動に関する調査」結果がまとまりました

区内企業の現状や企業の抱える課題等を把握するため、平成28年6月から平成29年3月にかけて、企業や団体等を対象とした調査を実施しました。

調査の結果は、平成30年度からの産業振興プランの策定に活用するとともに、産業振興施策を立案するための基礎資料とします。

調査報告書は新宿区ホームページにて公開しています  
[http://www.city.shinjuku.lg.jp/jigyo/sangyo01\\_002159.html](http://www.city.shinjuku.lg.jp/jigyo/sangyo01_002159.html)

【問合せ先】文化観光産業部 産業振興課 電話 03(3344)0701

平成29年  
1月～3月期

## 新宿区中小企業の景況

新宿区では区内中小企業に対する「景況調査」を年4回実施しています

平成29年1月～3月期の調査結果は、7月上旬に新宿区ホームページ上にて公開します。

【新宿ビスタタウンニュース No.37】

発行 新宿区文化観光産業部産業振興課 〒160-0023 新宿区西新宿6-8-2 区立産業会館(BIZ新宿) 電話 03(3344)0701  
 「新宿ビスタタウンニュース」は再生紙を使用しています。